

イースターおめでとうございます。雨の復活節となりました。この雨で桜の花も大分散ことでしょう。今朝はコリント人への手紙第一 15章から復活を覚えて、聖書の学びをしてまいりましょう。

1. 死者の復活はないという宣伝 (12節)

- ①キリストの復活の宣伝 (12節) 福音書を読めば、キリストの復活の出来事はつづさに記されている。この手紙を受け取っているコリントの教会の人たちも、パウロの宣教を通して既に明確に知らされ、それを信じているはずだ。
- ②死者の復活はない (12節) キリストを信じる者達には復活のいのちが与えられると伝えられてきました。ところが、教会の中にはギリシャ思想の影響か、「死者の復活はない」と言っている人がいるということです。これは単に疑問を持っているというよりも、そのようにふれ回っているということでしょう。

2. キリストの復活も (13~15節)

- ①キリストも (13節) 死者の復活がないとする人々の論に対して、パウロは「もし死者の復活がないなら、キリストも復活されなかったでしょう」と断じます。キリストは復活したとしても、死者は復活しないのだ言っている人に対して、それならキリストも復活されなかったと反論するのです。
- ②宣教は実質なし (14節) もとより、キリストの復活がなかったならば、「私たちの宣教は実質のないものになり、あなた方の信仰も実質のないものになるのです」とパウロは述べます。キリスト教はキリストの復活にこそ土台があるのであって、それを欠かせばその宣教も信仰も実質をなくし、空っぽの中身ののないものになってしまうのです。
- ③神に対する偽証 (15節) 宣教に実質がないことはもちろん、その復活の宣教をしてきたことは、神に対する偽証になってしまうと言うのです。なぜなら、と言ってパウロは「もしかりに、死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずですが、私たちは神がキリストをよみがえらせた、と言って神に逆らう証言をしたからです」とその理由を述べます。「偽りの証言をしてはならない」(出エジプト 20:16) という十戒の第九戒をおかしてしまったことになるという意味です。

3. 単なる希望ではなく (16~19節)

- ①信仰はむなしく (16~17節) 「重複に加うるに重複、ほとんどくどきほどなり。されども重複は事実の重要を示す。パウロが幾回となくこれを重複するを見て、復活の事実を彼の信仰上いかに重要な地位を占めおりしかを知るべし」とは内村鑑三です。これまでの重要な繰り返しをしつつ、キリストの復活がないなら「あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今なお罪の中にいる」と続きます。キリストの復活はキリスト信仰の不可欠の土台なのです。そうでなければ、罪の赦しはいただけないことになってしまうというのです。
- ②眠った者たち (18節) またキリストを信じて召された者達、ここでは「眠った者たち」は滅んでしまったのですとパウロは言います。中には、迫害に苦しみ死を迎えた者もあったでしょう。キリスト信仰のゆえに命をかけた者もあったでしょう。そういう人たちの死も頓死になってしまうというのです。
- ③一番哀れな者 (19節) 「この世にあってキリストに単なる希望を置いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です」。キリストに単なる希望を置いている信仰といわれて、どきっとしませんか。なんとなくキリストを信じている、淡い希望をいただいているだけなら、それは一番哀れな者です。そこまで記すパウロにとって、キリストの復活と信仰者の復活は不動の岩なのです。

《結論》 先日こんな質問をいただきました。「私たちが復活するとしたら、ある面ではおそろしいことではありませんか」と。この質問をしばらく考えていました。ある晩、寝床で「あしたも起こしてください」と祈ったのです。その時に思いました。このような祈りを本気にしたのは初めてかもしれない。やはり病気をしたからか、明日をも知れぬいのちを心の底のどこかで感じているからでしょうか。そして翌日、目が覚めてまた新しい一日が始まりました。その時に、「ああ、いのちを与えられていることは感謝なことだ」と思いました。そのことと、先日の質問と、今朝の聖書個所のメッセージが重なってきました。そして「そうか、復活のいのちを持ち眠っている者が目覚めるということは、主から起こされて、目覚めるべくして目覚めるのか。天と地が一つになるのか。その時はそのいのちを感謝するのだろうか。」と深く納得しました。信者には御霊のからだを与えられます (15:44)。そのからだは言い換えれば復活のいのちです。そのいのちが授けられているのが私たちです。そして、そのことを受け取っていくこととキリストの復活を信じることは密接不可分なのです。キリストの復活はキリスト教信仰の土台です。この信仰こそが私たちに本当の力といやしをもたらします。キリストの復活と私たちも同じように復活の恵みにあずかるということとは一体です。このイースターの朝、キリストの復活の恵みをたっぷりいただきましょう。